

すずかんの

医療改革の「今」を知る

来年度予算を見据え、医療議連から決議文を提出しました。

第34回

去

る6月18・19日、我々「医療現場の危機打開と再建を目指す国会議員連盟」は、額賀財務大臣・舛添厚生労働大臣・大田経済財政担当大臣に決議を申し入れました。

今回は「経済財政改革の基本方針（骨太方針）2008」

策定に際し、特に重要と判断された事項を盛り込みました。

主張は以下の4点です。「医学部定員の削減に取り組む」という従来の閣議決定の見直し、社会保障費の年間2200億

円削減方針の見直し、勤務医の就業環境と待遇の改善に取り組む団体等への支援拡充、国民全体の意識を高め、理解と協力を得ること。

議連は本年2月の発足以来、わが国の医療提供体制の再建のために超党派で活動を続け、結果、四半世紀続いた医師削減方針を大転換することがで

きました。今回の決議も、そうした150名超の議員の総意に他なりません。8月末には文科省・厚生省から財務省に概算要求が出され、年末には来年度の予算案が取りまとめられますが、我々の主張が十全に盛り込まれるためには、皆さんの協力が必要です。

医療への公費投入抑制は、2005年の選挙で大勝した小泉政権下の「行革推進法」の流れを汲むものです。国立大病院は毎年2%、国立大病院は5年で5%の人員費削減を迫られています。しかし現状でも、OECD加盟30カ国中、わが国は高齢化が最も進み医療需要が最も高いにも関わらず、人口当たり医師数はワースト4位。国公立病院勤務医の1週間の労働時間は、欧米の1.8倍です。抑制が叫ばれる総医療費も、対GDP比で見るとOECD中下から9位の低さなのです。この数字は医療の質と待ち時間に反映されて、国民の皆さ

んに返ってきます。

それでも福田首相が「200億円に聖域はない」と明言している以上、現状を覆すには、世論の後押しが不可欠です。ようやく最近になって医療現場の危機的状況が報道され、人々の認識も高まってきました。とはいえ健康な人にはまだピンときていません。読者の皆さんも、一人でも多くの「今は健康な知人友人」に、ぜひ医療充実の大切さをお伝えください。一緒に医療再建を目指しましょう！

医療現場危機打開・再建国会議員連盟幹事長、中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員

鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずかん。1964年生まれ。慶應義塾大学SFC環境情報学部助教授などを経て、現職。教育や医療など社会サービスに関する公共政策の構築がライフワーク。